

企画展

# 壇ノ浦の合戦と阿弥陀寺・赤間宮

「赤間関絵図（部分）」  
（個人蔵・当館寄託）

源義経  
（「錦絵 壇ノ浦合戦之図」（当館蔵）より）

平教経  
（「錦絵 八島大合戦」（当館蔵）より）

「絵巻書 下関  
官幣中社赤間宮（部分）」（当館蔵）

令和8年 4月17日<sup>金</sup> → 7月5日<sup>日</sup>

- 休館日 | 月曜日 ※5月4日(月・祝)は開館し5月7日(木)に休館
- 開館時間 | 9時30分～17時00分 [入館は16時30分まで]
- 観覧料 | 一般210円 [160円]、大学生等100円 [80円]  
※[ ]内は20名以上の団体料金
- 駐車料金 | 最初の2時間まで1時間ごとに100円、最初の2時間を  
超える30分またはその端数ごとに100円
- 駐車台数 | 一般26台、身障者用2台

## 関連講座

＜開催日＞

- ①「長門阿弥陀寺の成り立ちと変遷」  
令和8年5月20日(水)・24日(日)
- ②「安徳天皇縁起絵の鑑賞法 一壇ノ浦の合戦を中心に」  
令和8年6月24日(水)・28日(日)

※時間はいずれも10:30～11:30

＜場所＞下関市立歴史博物館 ガイダンス交流室

＜定員＞45名(要予約・先着順)

※令和8年4月17日(金)9:30より電話(083-241-1080)

または博物館受付にて受付開始。

＜資料代＞300円

キャンペーン 期間中、展示を観覧された方から  
抽選で40名様にオリジナルグッズをプレゼント

## 展示解説

＜開催日＞令和8年5月20日(水)・24日(日)、  
6月24日(水)・28日(日)

※各日11:40～12:10を予定

※講座終了後に実施するため、開始時間が前後することがあります。

＜場所＞下関市立歴史博物館 企画展示室

＜料金＞企画展観覧料

＜予約＞不要(講座を聴講しなくても参加できます)

### 下関市立歴史博物館

〒752-0979 下関市長府川端二丁目2番27号

TEL.083-241-1080 FAX.083-245-3310

# 壇ノ浦の合戦と阿弥陀寺・赤間宮

壇ノ浦の合戦を描く！



「安徳天皇縁起絵 第7幅・第8幅(複製)」(原資料は赤間神宮蔵)

源平最後の決戦となった壇ノ浦の合戦。海峡を舞台にしたこの戦いで、栄華を誇った平家は滅亡します。  
 長きにわたる内乱が終結したあと、戦没者の鎮魂のために創建された阿弥陀寺(現赤間神宮)は、幼くして波間に消えた安徳天皇や平家の人々のために鎮魂の祈りを捧げながら、この地に根付いていくことになりました。中世以降、下関を訪れた旅人の多くは、阿弥陀寺を訪れて在りし日の合戦に思いを馳せています。また、近世には、朝鮮通信使が旅路の途中で阿弥陀寺に宿泊し、安徳天皇の悲劇を訊ねて詩作することが慣例になっていました。近代に入り、阿弥陀寺は神社へと姿を変えますが、源平の合戦にまつわる古跡として、現在に至るまで人々に親しまれています。  
 本展では、壇ノ浦の合戦を中心に源平の合戦を辿りつつ、阿弥陀寺の変遷や下関に伝わる源平の伝承について紹介します。

晴れの姿を記念して！



「絵葉書 赤間宮先帝祭参拝官女道中姿」(当館蔵)

祭りを彩る  
海峡の風物詩！



「絵葉書 下関 赤間宮先帝祭上臈参拝(太夫)」(当館蔵)



下関市立歴史博物館  
学芸員 岡松 仁

### 担当学芸員のオススメ！

- 源平合戦の戦没者の鎮魂を担った阿弥陀寺(現赤間神宮)の変遷について紹介！
- 戦前に発行された絵葉書で、源平合戦の古跡や戦前の先帝祭について紹介！

### 交通のご案内

●公共交通機関	
JR下関駅	長府・小月・宇部・秋芳・長門・西市方面行きバス 所要時間約25分
JR新下関駅	バス停「城下町長府」を経由する「マリニランド」または「下関駅」行きバス 所要時間約20分
JR長府駅	バス停「長府駅前」から下関方面行きバス 所要時間約10分
●自動車	
下関I.C	壇の浦方面へ進み、国道9号線経由 所要時間約20分 長府方面へ進み、国道2号線経由 所要時間約15分

下関市立歴史博物館

